



# いずみこども園だより

7・8月号

令和8年6月30日  
千代田区立いずみこども園  
園長 横澤 峰紀子



いずみこども園  
ホームページ  
QRコード

【教育目標】元気な子ども やさしい子ども ☆考える子ども

## 立ち止まって 考える

園長 横澤 峰紀子

### なぜ行うのか？

一学期も残りひと月となりました。進級から数か月が経ち、子どもたちの生活はだいぶ、落ち着いてきたように感じます。5歳児ゆり組が取り組んでいる「挨拶隊」や「お休み調べ」などの当番活動もスムーズにできるようになってきました。その反面、慣れてきたためか、活動自体が形骸化し、気持ちが上の空のような状態のことがありました。そこで「それぞれの当番は、何のためにしているのか？」という当番活動の目的を、学級のみみんなで考える時間をつくりました。すると、子どもたちなりに一生懸命、その当番の意味や自分たちの役割について考える姿が見られました。それまで「当番だから」と取り組んできたことも、「朝、挨拶されたら、（相手が）嬉しいかも」と考えて取り組むことで、「（年齢の）小さな子が来たら、小さくなって挨拶しよう」と、目線を合わせて挨拶しようとするなど、工夫する姿も見られます。スムーズに行うことばかりでなく、行うことの意義をしっかりと考えながら取り組み、仲間とともに、役割を果たすことの喜びを味わってほしいと思います。

### 経験に基づいた言葉

私が、とても慌てて、職員室から園長室までの廊下を小走りしていた時、5歳児のAさんに「園長先生、廊下は走らない!」と、声を掛けられたことがあります。ごもっとも!大事なことを、しっかりとってくれたことに驚くとともに、さすが年長児!と、注意を受けた身でありながら、感心したことがありました。先生たちが、廊下の歩き方を伝え「ルール」として身につけているのかな?と思っていたのですが、その言葉は、生活の中で気づき、発せられた言葉であることが分かりました。

それは、1歳児のあひる組さんが、園庭に行くため、遊戯室前の廊下を歩いていた時のこと。廊下で遊んでいたAさん始め、数名の5歳児が、「ちょっと待ってね」と、廊下に広がっていたキングブロックを素早く動かし、あひる組の子どもたちが通れるような空間をつくってあげたのです。廊下も貴重な遊び場で、日々、活用している子どもたち。一方、廊下は共有の場でもあるため、みんなが安全に過ごすためには、互いを思いやり、気遣い、遊び方、場の作り方の工夫が必要です。自分たちよりも小さな子どもたちも過ごしている場だからこそ、自然にどのように対応するとよいのかを考えてきたのでしょう。自分たちで考え上手に場を共有しながら、安全に遊ぶ姿に、「ルールありき」ではなく、日々の経験に基づくAさんの生きた言葉だったことに気づき、改めて自身の行動を反省しました。

園は、小さな「共生社会」です。子どもたちは日々の生活や遊びを通して、友達や年下の子、地域の方々など、さまざまな人と関わりながら成長しています。今回のAさんの言葉や姿から、私自身も改めて「なぜそうするのか」を考えることの大切さを教えられました。決められたことをただ守るのではなく、その意味を考え、相手のことを思い、自分で判断して行動する。そんな力こそが、これからの社会を生きる子どもたちに必要な力なのだと思います。

だからこそ、時には立ち止まって考える。子どもたちと共に、その時間を大切にしていきたいと思います。